

1. 2GHz帯を用いた移動衛星通信システムについては、提案募集の結果を踏まえ、移動衛星通信システム（メッセージ通信）、移動衛星通信システム（音声通信、データ通信）、衛星・地上共用通信システムの3つに整理して検討を進めることが適当ではないか。

○ 「システム提案とりまとめ表（案）」にまとめた。

2. サービスイメージ、端末及びその普及イメージの明確化を図ることが必要ではないか。

○ サービスイメージ等について、委員会、作業班で提案者に対するヒアリングを行うとともに、「システム提案とりまとめ表（案）」にまとめた。

○ 直近で実現可能なシステムを提案しようとしている提案1に対して、将来的な実現を目指している提案2で同じ「総合システム設計」とあるが、認識に相違があるのではないか。

○ 提案2について、ガードバンドが10MHz必要であれば、使える帯域は20MHzとなる。サービスイメージもそれを前提に考えるべきではないか。

3. 収容可能な利用者数等について検証を進めることが必要ではないか。

○ 提案システムにおける収容可能な利用者数について試算し、「システム提案とりまとめ表（案）」にまとめた。

○ 「衛星回線の能力」の単位chあたりの帯域幅等については、リンクバジェットにも関連してくる内容であり、具体的にどのような考え方に立ってその値を設定しているのか、設計思想についての説明が必要ではないか。

S帯アドホック会合で指摘された課題等

4. 技術面の実現可能性の観点から、隣接国の同一周波数帯において地上系システムの普及も想定したガードバンド幅、アンテナ径等の検証を進めることが必要ではないか。

- ガードバンド幅、アンテナ径等の検証を進め「システム提案とりまとめ表（案）」にまとめた。
- ガードバンド検討では、各提案ともに平均電力を用いた検討を行っているが、最悪値となる最大電力を用いてどの程度の改善量が求められるのかを検討した上で、その解決策を講じることが有効ではないか。
- 提案1におけるガードバンド検討では、アンテナ径が小さいため、隣接国との国際調整が難航すると考えられるが、調整の見通しがあるのか。
- 提案2から提示されているフィルタ特性ではガードバンドがもっと必要にならないか。ガードバンド幅を決めて検討するのではなく、ガードバンド幅をいくらとれば干渉量をいくら減衰できる、といった議論をすべきではないか。
- 提案2のガードバンド検討は30m級のアンテナで実施しているのに、とりまとめ表には22m～30mと記載されており、整合がとれていないのではないか。また、「実力値」、「端末の製造マージン」、「フィルタの追加により最大50dBの改善」といった表現が多く見られる点について、具体的かつ詳細な根拠を示す必要があるのではないか。

5. 2GHz帯の利用方法を検討するに当たっては、無線局の目的（電気通信業務用又は公共業務用等）の明確化及び関係規則への適合について考察が必要ではないか。

（参考） 実用準天頂衛星システム事業の推進の基本的な考え方は平成23年9月30日に閣議決定。